

花鳥風月・俳句

我が庭の隅に白梅咲き始む

寒がりの老励ましてウオーキング

我が秘伝嫁に教へる花菜漬

句作りの辞引きも備へ春炬達

庭先に紅梅咲かせ旧家なる

夕仕度わずかながらも日脚伸ぶ

三浦シズ子

さえ返る鳥居の先の垂れ桜

高橋学

休校と見えぬ校門梅の花

まごら来て三日の家の雪とける

曾我部 福石

しだれ梅春のおとずれ我が庭に

鴻上 長英

新幹線一両借りて初鯉

越智 和人

春近し駅イベントのキッチンカー

越智 恵美子

誘ひあひ彼岸詣の老姉妹

鶯や十分間の停車駅

鈴木 伊都美

まっさらな革の匂ひのランドセル

今城

宏子

早や五月木洩れ日眩し森の中

真っ直ぐに生きて暮して春惜しむ

小野

弘幸

個人判断外せぬマスク花粉症

桜前線歩くがごとく北上す

徳永

誠一

晴朗や雲引っぱってセスナ飛ぶ

名刺の砂紋冴ゆる空海忌

水仙を部屋に飾れば変心す

塗塀

良子

満腹やたき込みごはん金目鯛

赤や黄のチューリップや青い風

ぶっくりやしだれ桜の芽吹いてる

石井 トシ子

平和えと跳ねよ卯の年春近し

令和五年穏やかに明けて良き年で

明星 勲

冬牡丹藁の横より笑顔みせ

椿おち枝に箱あり小鳥飛ぶ

篠原 高代

冬枯れの一輪咲きし梅の花

黄雀や親とはぐれて花畑

落合 敦

二月はにげ三月はさり早四月

れんげ咲き畔道せまくけずるにおし

ホーレン草芽が出て日々大なるなり

加藤 イサ子

人住まうことなぎ廃屋雪でうもれり

大寒や寒いねと言う寒いよね

おみせさんごっこのような雪の峰

曾我部 福石

やや派手となりし自前の春着かな

春めくと老の一日始まりぬ

三浦 シズ子

鼻歌に朧月夜の露天の湯

陽炎に路面電車の吸ひ込まれ

通路へと旅の予定をにこり組む

小田 和子

陽春やごろりごろりと草の上

春雨の降る音続く城下町

草餅をがぶりひと口にてごくり

小田 慶喜